

相互理解に基づく 交流発展を

著作権の関係上、表示できません。



株式会社山口銀行 頭取
福田 浩一 氏
ふくだ こういち

昨秋も中国・青島を訪ねました。山口銀行が青島に営業拠点を設けて四半世紀、そこで文化行事として行っている「山口銀行杯日本語弁論大会」に主催者として出席するためです。春先から高校生・大学生・社会人と分かれて予選を、そして秋に決勝大会と各成績優秀者の発表会を行っています。参加者の日本語の上手さにも驚かされますが、その内容も興味深く、毎年楽しみにしています。数年前の入賞者は「退屈な毎日を変えたくて、仕事帰りの一刻でも楽しかった学生時代に戻ろう」と思い、日本語の勉強を始めた」と語りかけた女性のタクシー運転手でした。前回の優勝者は「タクシーの中で日本の友人と日本語で楽しく携帯電話で話していると、運転手からお前には愛国心がないのかとなじられた。そこには黙っている自分だったが、その後日本の会社に勤め、多くの日本人と交流を深めると、こんなに平和を愛し、優しい穏やかな人たちはいない、日本語を使い、日中の架け橋となる仕事を誇りに思う」という内容でした。

今回のテーマは「夢」。外交官になるのが夢と語った大学生の部優勝者は、スピーチの中で日中関係に最も必要な三点を挙げたいと発表しました。第一に日本を良く知ること。相手を知らないで外交は出来ない。第二に中国を知ること。自分の国を知らないで何の主張が出来るのか。最後に世界を知ること。世界の中の中国、日中関係を踏まえなくて、正しい方向に進めるのかという内容でした。日本の学生からこのスピーチを聞きたいものだとつくづく思いました。民間の交流は大変意義あるもので、益々その重要性は増します。小学生的交流支援や留学生の受け入れも今後も続けたいと思います。しかし一方では反日教育を受け、また今後も受けるであろう13億人の前では圧倒的に少数派です。反日教育の是非を問ひかけ、やめてもらう。靖国問題を理解してもらう。こういった不断的努力を惜しまず、常日頃から行い、正しい相互理解に基づいた両国の交流発展を心から願う今日この頃です。